

相模原・県央



原和名間瀬川野原
模老名間瀬川野原
厚大海座綾愛清秦伊勢

中学向け給食センター統合

PFI活用、三田地区に

厚木

厚木市はこのほど、更新する市学校給食センター(仮称)の整備計画を策定した。現在全13校の中学校などに給食を提供している北部給食センター(同市三田)と南部給食センター(同市船子)が老朽化しているため、統合して同市三田地区に候補地を選定して新設する。

整備に当たり、民間の資金やノウハウを活用し、経費削減が期待できるPFI手法を導入する方針が示された。

新センターの敷地面積は約6千平方メートル、延べ床面積は約3500平方メートルで、1日当たり米飯やおかずなど最大7千食を提供。現行のランチトレイを廃止して個別食器に変更する。増加傾

となる防災機能や環境負荷低減を兼ねた太陽光発電を導入する。

市は今後、用地交渉に入り2019年度に取得。20年度に設計・建設から維持管理・運営まで一括契約を想定するPFI業者を選定して21年度に着工、22年度の完成を目指す。

(山口 譲一)

児童と交流 絆深め

取り組む中高生に感謝状

相模原署

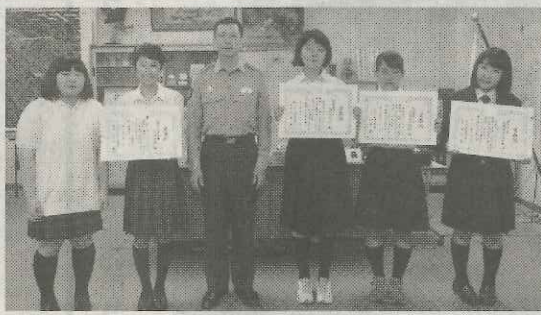
相模原

相模原署は25日、相模原市中央区内のこどもセンターや児童クラブで低学年の児童に学習支援や非行防止紙芝居をして交流する「絆プロジェクト」に関わった

県立相模田名高校、麻布大付属高、市立田名中学、上溝南中学の計4校の生徒に感謝状を贈った。同プロジェクトは2011年度から田名こどもセンターで始まり、7年目。2年目から田名北児童クラブや湘野辺児童クラブなどでも行われるようになった。初期に教えを受けた児童は中学生に成長しており、関係者は「今度は支える側に

なってくれたら」と期待している。

同署で和智勉署長から感謝状を手渡された麻布大学付属高3年の平間琴音さん(17)は「継続した取り組みが評価されうれしい。これからも地域に密着して期待に応えることができれば」と話した。ことしから加わった新宿児童クラブを訪問した市立上溝南中学校3年の海日帆乃香さん(14)は「小学生をリードできるか



不安だったが、次第に心を開いてくれた」と手応えを感じた様子だった。

(鈴木 秀隆)

移駐後厚木基地 運用開示求める

大和

米海軍厚木基地(大和、綾瀬市)に駐留する空母艦載機の岩国基地(山口県)への移駐計画を巡り、大和市基地対策協議会(会長・大木哲市長)は25日、移駐後の厚木基地や艦載機の運用について具体的に示すよう日

本政府や米側に書面で求めた。

基地協は要望書で、艦載機が厚木基地を「折に触れて使用」することを在日米海軍司令部が明言したことに加え、運用について具体的、早急に示すよう求めた。「移駐を一日も早く完了させ、市民の負担軽減に確信に結び付くものとなるよう強く求める」とした。

日米合同委員会で合意された厚木基地周辺の航空騒音軽減措置の厳守や改訂、基地交付金の見直しなども要請した。

JAXA実験棟 公開でにぎわい

相模原

小惑星探査機はやぶさ2などの開発拠点として知られる宇宙航空研究開発機構(JAXA)相模原キャン

パス(相模原市中央区由野台3丁目)の特別公開が、日始まり、大勢の家族連れでにぎわっている。26日まで。同機構の主催。

今年2月に完成したばかりの宇宙探査実験棟(第2会場)では、月や惑星表面を模した広大な屋内実験場「宇宙探査フィールド」が見学者通路から窓越しに知

厚木市は市北西部を中心に畑や住宅地に、県の管理捕獲の方針に基づき、2011

物が食い荒らされる被害に悩まされて